

エジプト学研究第 21 号 2015 年

The Journal of Egyptian Studies Vol.21, 2015

目次

〈序文〉	吉村作治	3
〈調査報告〉		
2014 年 太陽の船プロジェクト 活動報告	黒河内宏昌・吉村作治	5
第 7 次ルクソール西岸アル＝コーカ地区調査概報		
近藤二郎・吉村作治・河合 望・菊地敬夫・柏木裕之・竹野内恵太・福田莉紗		19
〈特別寄稿論文〉		
年輪年代学とエジプト学	ピアース ポール クリースマン・ジェフリー S ディーン	45
〈研究ノート〉		
中王国時代の装身具利用からみた埋葬習慣の地域性	山崎世理愛	59
〈修士・卒業論文概要〉		
エジプト先王朝時代における石製品研究		
—その生産と流通からみた地域統合過程の変遷を中心に—	竹野内恵太	79
「古代テーベとそのネクロポリス (The Ancient Thebes and its Necropolis)」における		
遺跡の保存と活用	福田莉紗	87
古代エジプト古王国時代から第一中間期における王権観	松永修平	96
〈活動報告〉		
2014 年度 早稲田大学エジプト学会活動報告		103
2014 年 エジプト調査概要		107
〈編集後記〉	近藤二郎	113

The Journal of Egyptian Studies Vol.21, 2015

CONTENTS

Preface	Sakuji YOSHIMURA.....	3
Field Reports		
Report of the Activity in 2014, Project of the Solar Boat	Hiromasa KUROKOCHI and Sakuji YOSHIMURA.....	5
Preliminary Report on the Seventh Season of the Work at al-Khokha Area in the Theban Necropolis by the Waseda University Egyptian Expedition	Jiro KONDO, Sakuji YOSHIMURA, Nozomu KAWAI, Takao KIKUCHI, Hiroyuki KASHIWAGI, Keita TAKENOUCI and Risa FUKUDA.....	19
Articles		
Dendrochronology and Egyptology	Pearce Paul CREASMAN and Jeffrey S. DEAN.....	45
Regional Variability of Personal Adornments and Burial Customs in the Middle Kingdom	Seria YAMAZAKI.....	59
Summary of the Recent Undergraduate Theses.....		79
Activities of the Society, 2014-15.....		103
Brief Reports of Fieldworks in Egypt, 2014.....		107
Editor's Postscript.....	Jiro KONDO.....	113

中王国時代の装身具利用からみた 埋葬習慣の地域性

山崎 世理愛*

Regional Variability of Personal Adornments and Burial Customs in the Middle Kingdom

Seria YAMAZAKI*

Abstract

The Middle Kingdom was a period of reformation and social change, specifically in funerary customs, people were able to associate themselves with Osiris. Moreover, belief in the afterlife became popular among commoners, and their interest of preparing for the netherworld was increased. This change made a new trend of funerary items such as shabti, wooden model and coffin texts. In order to understand the burial customs during the Middle Kingdom, the models and coffins have been studied, but the personal adornments like jewelry and amulet have not yet been discussed well. Moreover, unlike other objects, regional variability of the adornments remains unclear.

In this paper, therefore, the personal adornments of the Middle Kingdom were studied to clarify their regional diversity with quantitative analysis. This study dealt with 160 tombs including personal adornments, and the adornments were categorized into 18 types according to their functional and morphological features.

The analysis showed that especially four types; necklaces, collars, single string bracelets and broad bracelets were mostly popular adornments during the Middle Kingdom. Furthermore, frequency of the four types showed the regional features; there were different patterns of the selection by the region. Firstly, collars and broad bracelets were the most popular in the Memphis-Fayum region. Middle Egypt (to Rifeh) had a similar pattern but broad bracelets were absent. Secondly, necklaces and single string bracelets were mainly used in South Egypt (to Thebes), and they tended to be made of expensive materials such as gold, silver and semi-precious stones.

Moreover, a series of jewelry belonging to the “Lower Egyptian Costume” were mostly found from the royal burials in the Memphis-Fayum region. Collars and broad bracelets also appeared in the royal burials as essential items. Therefore it is probable that such adornments were originally regalia and mainly used as the royal burial goods. In the Middle Kingdom, non-royalty could emulate some regalia. These aspects indicate that commoner at the Memphis-Fayum idealized the royal burial and custom, and people of Middle Egypt probably bear similar belief. However, there was different ideal in South Egypt where the most important item for the burial was not regalia but the necklaces and single string bracelets made of expensive materials. Therefore, each region had own ideology for the burial, and it was reflected in the personal adornments.

* 早稲田大学文学部考古学コース 4年

* Undergraduated Student, School of Humanities and Social Sciences, Waseda University

1. はじめに

古代エジプトの中王国時代は、それまで築き上げられてきた社会の伝統を継承しながらも、新王国時代に続く新たな文化的要素が育まれた時代である。また、王以外にも来世への道が開かれたことで、人々の死後への関心がより強くなった時期でもある。もちろん、それは埋葬習慣から直接看取される。たとえば、木棺にはコフィンテキストなど来世に向けて様々な呪文が書かれた。さらに、穀物倉庫、パン作り、ビール醸造などの木製模型が来世のために副葬されたのである。そしてその影響は、装身具・アミュレットにも表れたと言われている。しかし、先行研究では、装身具の製作技術や種類の紹介が主で、埋葬習慣と関連づけた論考は極めて少ない。

また、中王国時代における埋葬習慣の地域性については、これまで木棺の装飾や副葬品から語られてきた。しかし、副葬品の中でも装身具からは、十分な考察がされてこなかったのである。そこで本論では、装身具・アミュレットの地域別出土傾向を分析することで、新たな視点から中王国時代の埋葬習慣について考察を加える。

2. 先行研究と本論の目的

古代エジプトでは、襟飾りや腕輪など様々な装身具およびアミュレットが利用された。幅広い社会階層の墓に副葬され、発掘調査によって多種多様な形態が確認されている。装身具・アミュレットの研究は、ピートリ (Petrie, W.M.F.) によるアミュレットの分類 (Petrie 1914) を基礎研究の始まりとして、諸研究者がスカラベなど個々の遺物に関する研究を進めるに至る。また、アルドレッド (Aldred, C.) による各時代の装身具とその製作技法に関する書籍 (Aldred 1971) や、アンドリュース (Andrews, C.) による各アミュレットの持つ意味について詳述された書籍 (Andrews 1994) が刊行されており、遺跡の報告書などで広く引用されている。

王朝時代を通して装身具およびアミュレットは利用されたが、その種類が大幅に増加したのは中王国時代だと言われている (Wegner 2010: 124)。ウェグナー (Wegner, J.) は、その理由として、王族以外の人々と神との距離が縮まるという中王国時代の社会的変化を指摘している。つまり、それまで王族が独占していた神と結びつきの強いシンボルを、王族以外の人々も利用できるようになり、装身具・アミュレットに取り入れ始めたということである (Wegner 2010: 125-127)。また、中王国時代の装身具については、出土遺物と画像資料の両方をもとにグラジェツキー (Grajetzki, W.) がタイプごとにまとめ、それぞれの役割について述べている (Grajetzki 2014: 116-127)。

以上のように、古代エジプトの装身具およびアミュレットに関する既往研究は、主に装身具の種類紹介や型式分類に重点を置いておこなわれてきた。中王国時代の装身具はそれに加え、最近では、特にグラジェツキーによって、タイプ分けやアセンブリッジについて検討がされているという状況にある。

中王国時代における埋葬習慣の変化は、木製模型や木棺装飾、その他様々な副葬品から考察がされているが、装身具という視点ではあまり語られてこなかった。というのも、先行研究では、装身具の地域や時期による違いという視座に立った研究がほとんどおこなわれていないのである。また、これまではグラジェツキーのように、出土例を挙げてそれを考察するという方法が中心で、定量的な分析はおこなわれてこなかった。よって本論では、副葬品の中でも装身具に焦点をあて、特にその地域性について明らかにすることを目的とする。さらに、その地域性は何に起因するのかということも考察してみたい。

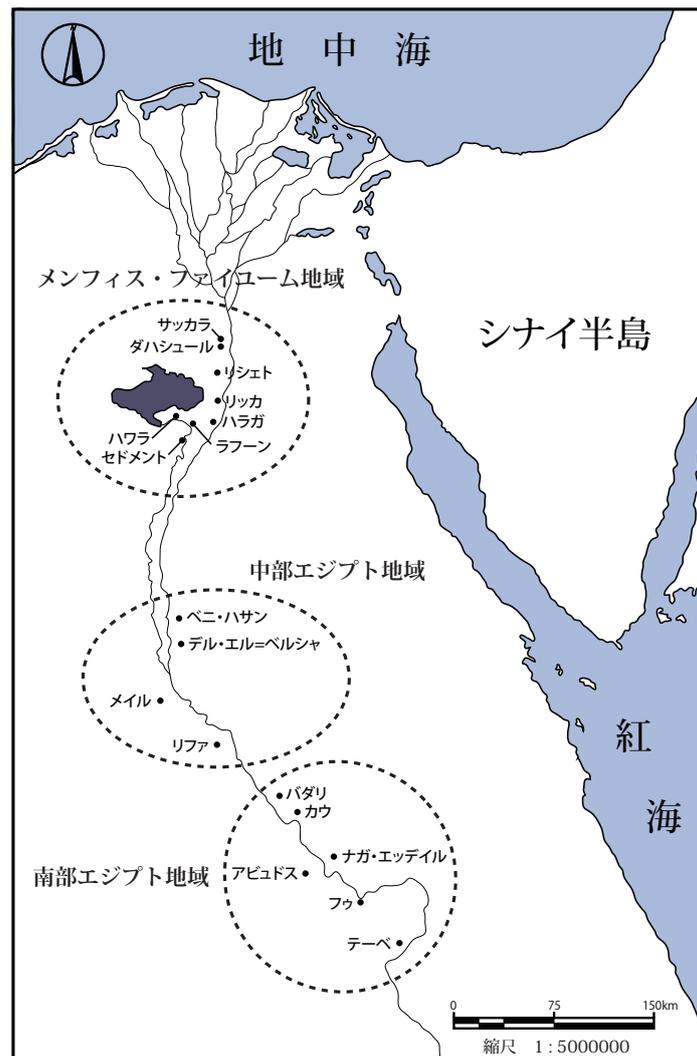


図1 対象遺跡を示したエジプト地図

Fig.1 Map of Nile Valley

3. 対象遺跡・資料と分析方法

本論で対象とする遺跡は、サッカラ遺跡 (Firth and Gunn 1926)、ダハシュール遺跡 (de Morgan 1895; de Morgan 1903; Baba and Yoshimura 2011)、リシエト遺跡 (Mace and Winlock 1916; Lansing and Hayes 1934; Arnold 1992)、リッカ遺跡 (Engelbach 1915)、ハワラ遺跡 (Farag and Iskander 1971)、ハラガ遺跡 (Engelbach 1923)、ラフーン遺跡 (Brunton 1920; Petrie, Brunton and Murray 1923; Winlock 1934)、セドメント遺跡 (Grajetzki 2005)、ベニ・ハサン遺跡 (Garstang 1907)、デル・エル=ベルシャ遺跡 (Kamal 1901; D' Auria, Lacovara and Roehrig 1988)、メール遺跡 (<http://www.metmuseum.org/>)、リファ遺跡 (Petrie 1907)、バダリ遺跡 (Brunton 1927)、カウ遺跡 (Brunton 1927)、ナガ・エッデイル遺跡 (Eaton 1941)、アビュドス遺跡 (Garstang 1902; Peet 1914; Peet and Loat 1914; Frankfort 1930; Richards 2005)、フウ遺跡 (Petrie 1901)、テーベ遺跡 (Hayes 1953; Roehrig 2003) である (図1)。地域区分については、図1に示した通り、3地域に分ける¹⁾。

対象とする遺物は墓から出土した装身具であるが、装身具は本来の形態ではなくビーズ単体として出土することが多い。そして、発掘報告書の精度によっては、出土位置も不明な場合がある。そのため本論では、第11王朝末～第13王朝中頃に比定される墓から出土した、形態が明らかな装身具のみを分析の対象とする。

一方で、中には盗掘されている墓も多く、装身具の形態は判明していても、個体数が不明な場合がある。したがって、分析においては遺物の出土量ではなく、それぞれの種類の装身具が何基の墓から出土したのかという「出土墓数」に注目する。具体的な分析対象墓数は表1に示した通りで、メンフィス・ファイユーム地域は合計86基、中部エジプト地域は合計18基、南部エジプト地域は合計56基、全地域合わせて160基となっている(表5)²⁾。以上の墓を対象に、装身具の種類別出土傾向を地域ごとに分析していく。なお、同一の墓から複数種類の装身具が出土することがあるが、その場合は、それぞれの装身具につき出土墓数を1基ずつカウントする。墓の時期設定については、基本的に発掘報告書の記述に従うが、中には後の研究によって大幅に年代が修正された墓も存在する。その場合は、最近の研究を十分考慮した上で時期を設定する。

表1 地域・遺跡ごとの分析対象とする墓数
Pl.1 Number of tombs for analysis

地域	遺跡名	中王国時代前半	中王国時代後半	不明	計
メンフィス・ファイユーム地域	サッカラ	4基	6基	-	10基
	ダハシュール	-	8基	-	8基
	リシェト	2基	2基	3基	7基
	リッカ	-	1基	11基	12基
	ハワラ	-	1基	-	1基
	ハラガ	-	15基	31基	46基
	ラフーン	-	1基	-	1基
	セドメント	1基	-	-	1基
中部エジプト地域	ベニ・ハサン	4基	2基	5基	11基
	デル・エル＝ベルシヤ	2基	-	-	2基
	マイル	-	1基	-	1基
	リファ	-	4基	-	4基
南部エジプト地域	バダリ	1基	-	-	1基
	カウ	4基	-	-	4基
	ナガ・エツデイル	1基	-	-	1基
	アビュドス	1基	21基	21基	43基
	フゥ	-	-	4基	4基
	テーベ	2基	1基	-	3基

4. 本論における装身具の分類

分析に先立って、ここではまず本論における装身具の分類を提示する。既往研究でおこなわれた分類は、アミュレットを含むビーズの形状に重点を置いていた。しかし、本来副葬品として埋納された段階では、多くが装身具として一つのまとまりを成していたであろう。副葬品としての利用において重要なのは、ビーズの形状だけではなく、そのまとまりにも意味があったと考えられる。そのため、本論ではまず、身体のどの部位を装飾するのかという機能を重視して分類をおこなう³⁾。そして、装着部位が同じ装身具については、ビーズの形状は考慮せず、装身具自体の形態によってさらに分類をする。また、中王国時代には、「下エジプト王様式の衣装(“Lower Egyptian Costume”）」と呼ばれる一連の装身具・アミュレットが存在する。これは、

表2 本論における中王国時代の墓から出土した装身具の分類
Pl.2 Classification of jewelry found from tombs

装着部位	分類	説明
A. 頭	A1: 環状頭飾り	冠としてつける環状のもの
	A2: 髪飾り	ビーズの形態をしており、髪あるいは鬢に通して使う
B. 首・胸	B1: 襟飾り	非常に幅の広い首飾りで、半円形ターミナル付きとハヤブサ頭形ターミナル付きのものがある。金属製で、ビーズの形が模様として表現されているタイプもある。
	B2: 襟飾り用重り	襟飾りと同じ形状のターミナル、材質で製作された重り
	B3: 胸飾り (ペクトラル)	首飾りに付けられた大きなペンダント
	B4: 一連首飾り	同形状のビーズが秩序よく連なったタイプと、多様な形状のビーズがばらばらに連なったタイプがある。ペンダントと一緒に連なっているものもある。
	B5: 幅広首飾り (チョーカー)	ビーズ製で幅の広い(襟飾りよりは狭い)首飾り
	B6: トルク	金属製で輪の形状をしており、首に密着して着けられる
C. 腕	C1: 幅広・幅狭腕輪	ビーズの位置を固定するためにスペーサーが用いられた幅の広いタイプ(幅広腕輪)と、管状ビーズを連ねることである程度の幅を持たせたタイプ(幅狭腕輪)がある
	C2: 一連腕輪	同形状のビーズが秩序よく連なったタイプと、多様な形状のビーズがばらばらに連なったタイプがある
	C3: 金属製腕輪	金属板を湾曲させたものとワイヤ状のものがある
D. 指	D1: スカラベ付き指輪	スカラベ形ビーズが用いられた指輪で、リングは金属製のものとして珪麻糸製のものがある
E. 腰	E1: ビーズ腰飾り	同形状のビーズが秩序よく連なったタイプと、多様な形状のビーズがばらばらに連なったタイプがある
F. 足	F1: 幅広・幅狭足輪	ビーズの位置を固定するためにスペーサーが用いられた幅の広いタイプ(幅広足輪)と、管状ビーズを連ねることである程度の幅を持たせたタイプ(幅狭足輪)がある
	F2: 一連足輪	同形状のビーズが連なった足輪で、ペンダントと一緒に連なっているものもある
G. 「下エジプト王様式の衣装」	G1: ビーズエプロン	幅の広いベルトからパピルス形や十字形、ユリ形などのビーズが複数本吊り下がったもの
	G2: ツバメ形ペンダント	ツバメの形をした赤色のペンダントで、腰に着けられる
	G3: 尻尾	動物の尾を模したもので、表面にビーズで装飾が施されている

「宮廷様式の埋葬 (“Court type burials”）」⁴⁾と関係することが指摘されており (Grajetzki 2010: 92)、本論においても重要な位置を占める。そのため、機能を軸に分類する他の装身具とは別に、「下エジプト王様式の衣装」として分類することとする。

先述した 160 基の墓から出土した装身具を分類した結果、A1 から G3 までの 18 種類に中王国時代の装身具は分けられた。具体的な分類は、表 2 と図 2 に示した通りである。この分類に従って、装身具の種類別出土傾向を分析していく。

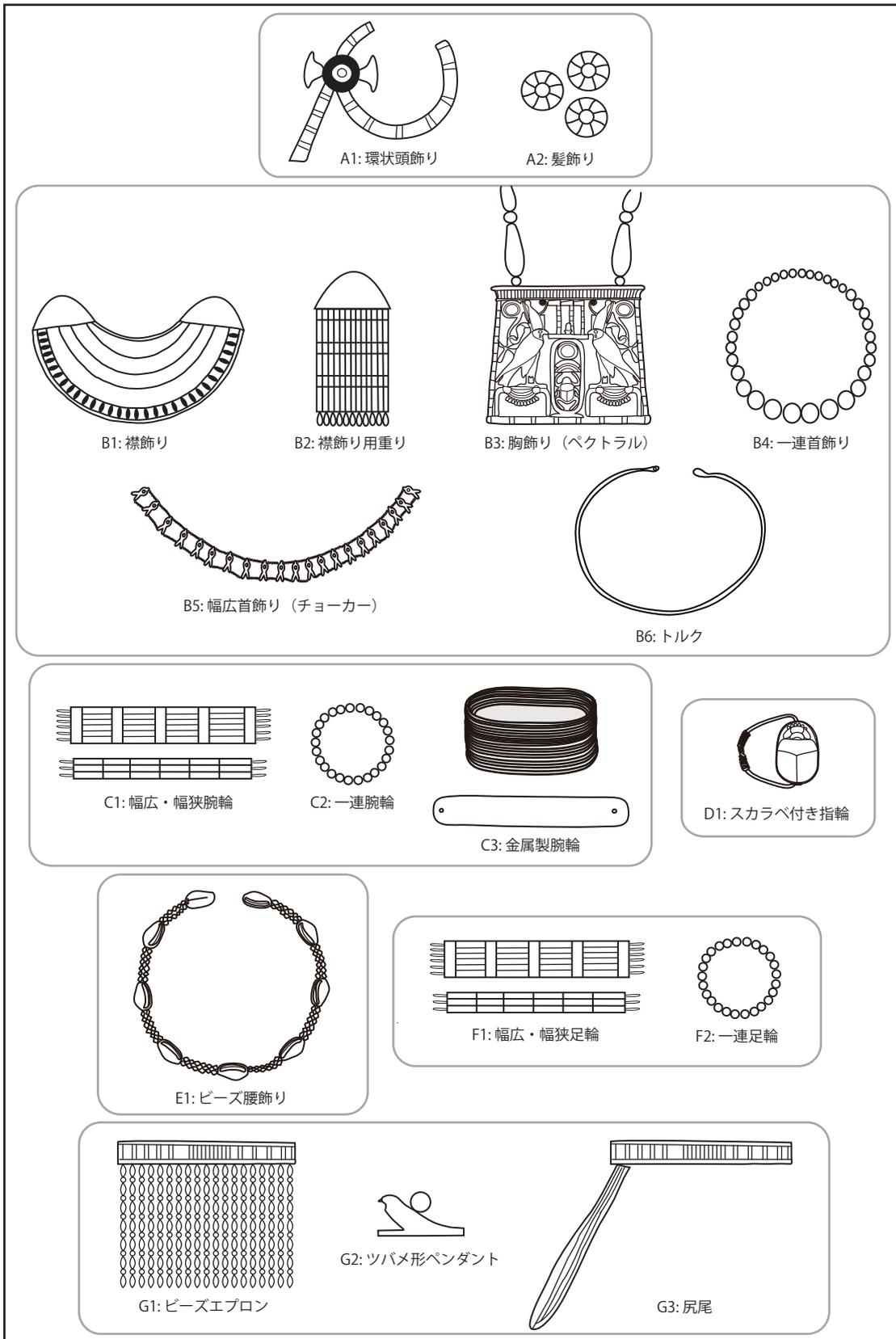


図2 分類した装身具の形状

Fig.2 Form of jewelry

5. 各地域における装身具の種類別出土傾向

(1) 主要な装身具について

■地域ごとの出土傾向

装身具の種類 (A1 ~ G3) 別出土傾向を分析した結果、B4. 一連首飾り (97 基)、B1. 襟飾り (66 基)、C2. 一連腕輪 (19 基)、C1. 幅広・幅狭腕輪 (16 基) の順に多くの墓から出土することが明らかとなった。ここでは、これらの特に多くの墓から出土した 4 種類の装身具について、地域別の出土傾向を示していく (図 3)。

<メンフィス・ファイユーム地域>

当該地域からは、襟飾りの出土墓数が最も多く、55 基が確認された。一連首飾りは、襟飾りに次いで多く、40 基から出土した。しかし、この分析結果は、各遺跡の発掘報告書の精度に左右されている可能性がある。なぜなら、メンフィス・ファイユーム地域の中でも、特にハラガ遺跡の発掘報告書には、出土したビーズの数量や出土位置が記されていない場合が非常に多く、一連首飾りを認識できていない可能性があるからだ。おそらくその影響もあって、遺跡別の出土傾向ではハラガ遺跡は著しく低い値を示している。そのため、実際はもっと多くの一連首飾りが副葬されていたと考えられる。そこで、一連首飾りにしばしば見られる、首の後ろ側が最も小さい球形ビーズで、前側に来るにつれて段々ビーズのサイズが大きくなるデザインに必要な「大きさの異なる球形ビーズ」が出土した墓も例外的に対象として、再度分析を試みた。その結果、出土墓数が増加し、襟飾りよりも出土墓数が多い (65 基) 結果となった。腕輪については、一連腕輪 (8 基) よりも幅広・幅狭腕輪の方が多くの墓から出土することが判明した (14 基)⁵⁾。幅広腕輪は、主に王族の墓から出土している。一方、幅狭腕輪は王族の墓からは確認されていない。

<中部エジプト地域>

メンフィス・ファイユーム地域と同じく、襟飾りの出土墓数が多かった (10 基)。続いて、一連首飾りが 8 基から確認された。ビーズ製腕輪の出土墓数は非常に少なく、一連腕輪が 1 基からのみ出土した。なお、本分析においては、幅広・幅狭腕輪の出土墓は確認されなかった⁶⁾。

<南部エジプト地域>

当該地域は、メンフィス・ファイユーム地域とは対照的な結果となった。つまり、最も出土墓数が多かったのは、一連首飾りで (49 基)、襟飾りの出土墓は中王国時代前半⁷⁾の 1 基だけなのである。さらに、腕輪についても、2 種類のうち、幅広・幅狭腕輪より一連腕輪の出土墓数が多い結果となった。したがって、一連首飾りと一連腕輪は、南部エジプト地域に特徴的な副葬品と言える。先述の通り、メンフィス・ファイユーム地域の一連首飾りは、再分析の結果、出土墓数が 65 基に増加した。これは、南部エジプト地域からの出土墓数よりも多い結果である。ただし、メンフィス・ファイユーム地域の対象遺跡数が多い点や、ハラガ遺跡など大規模な遺跡の存在から、当該地域は南部エジプト地域よりも、もともとの人口が多かったと推測できる。

なお、幅狭腕輪は、テーベのウアフ (Wah) の墓 (Roehrig 2003: 11-13) から出土しており、その形状はメンフィス・ファイユーム地域で出土したものと酷似している。また、彼の墓からは南部エジプト地域ではめずらしく、メンフィス・ファイユーム地域では 50 基以上の墓から出土する襟飾りが見つかっている。

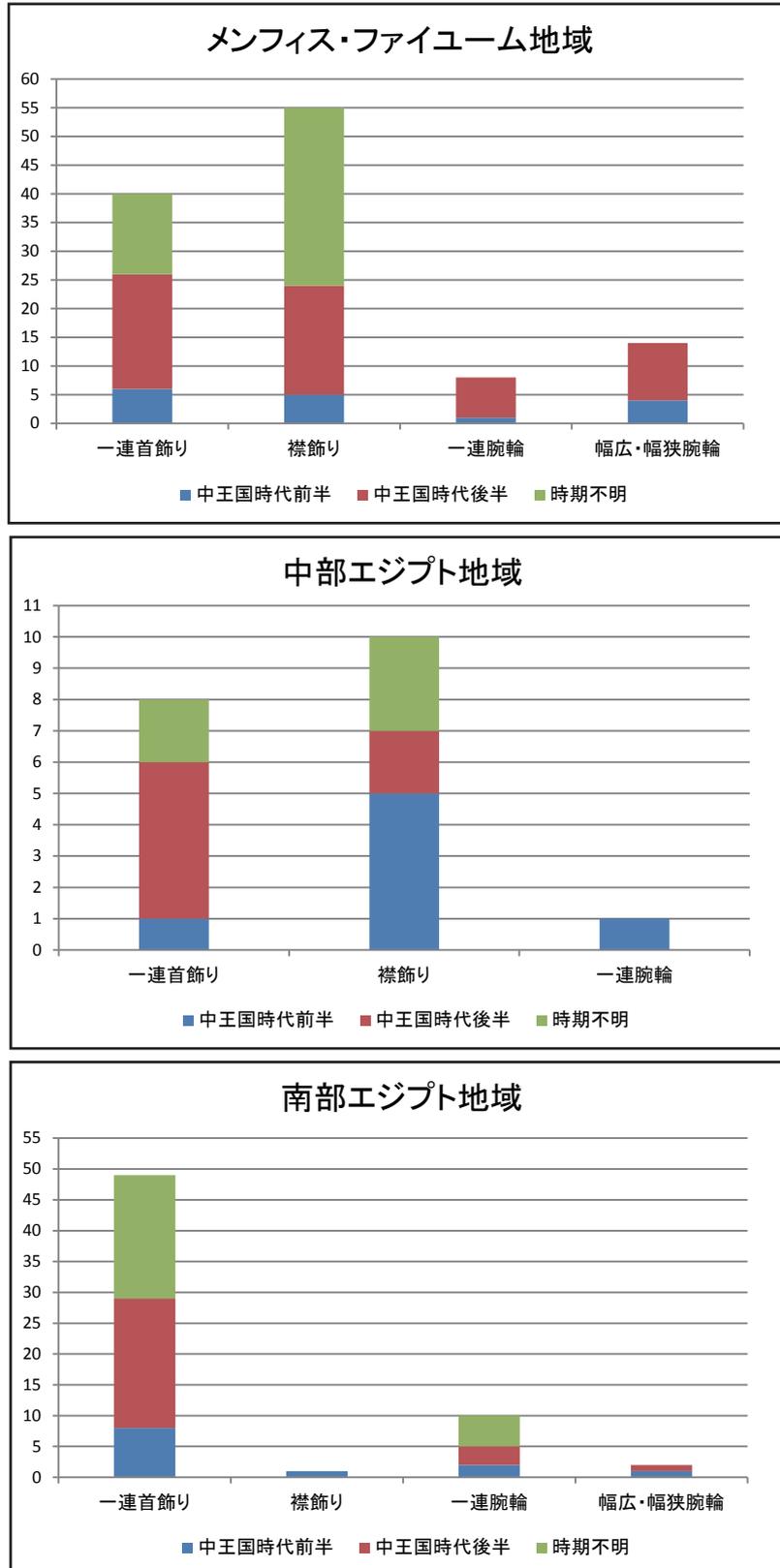


図3 主要な装身具の地域別出土墓数

Fig.3 Regional variation of jewelry in the Middle Kingdom

■素材について

ここまで、装身具の地域別出土傾向についての分析結果を提示した。これをふまえ、続いて主要な装身具の素材について述べる。

まず、一連首飾りに使われたビーズには、釉が施された石製あるいはファイアンス製が多用されているほか、準貴石製ビーズも頻繁に見られる。中でも、カーネリアンとアメジスト製が多く、他にもラピスラズリ、ガーネットが使われている。また、金、銀、琥珀銀製のビーズも見られる。王族以外も、上記のような価値の高い素材で製作された一連首飾りを所有しており、それは特にメンフィス・ファイユーム地域と南部エジプト地域において当てはまる。また、ペンダント付き一連首飾りに使われるペンダントは、金や銀を中心とした価値の高い素材で作られる傾向がある。この傾向は3地域いずれにも見て取れるが、全体的に高価な素材の副葬品が多いメンフィス・ファイユーム地域の王族を除けば、それは特に南部エジプト地域で顕著に見られる。

次に、襟飾りについては、メンフィス・ファイユーム地域に埋葬された王族のものは、ほとんどにカーネリアン、ターコイズ、ラピスラズリなどの準貴石や金が使われている一方、王族以外の墓に副葬されたものの多くは、釉が施された石製あるいはファイアンス製ビーズで製作されている。

一連腕輪には、やはり釉が施された石製あるいはファイアンス製ビーズが多く用いられているが、カーネリアンなど準貴石もしばしば見られる。また、メンフィス・ファイユーム地域の王女が埋葬された墓から出土する一連腕輪に使われたライオン形ビーズは金製である。

最後に、幅広・幅狭腕輪の素材は、その腕輪が幅広かそれとも幅狭であるのかで大きく二分される。というのも、王族の墓から出土する機会が多い幅広腕輪は、準貴石や金といった高価な素材で製作されている一方、幅狭腕輪のほとんどはファイアンス製なのである。



図4.「下エジプト王様式の衣装」を身にまとったセンウセレット1世のレリーフ (Patch 1995, fig.3)

Fig.4 Relief of Senwosret I wearing "Lower Egyptian Costume"

(2) 「下エジプト王様式の衣装」と殻笄ビーズの出土傾向

「下エジプト王様式の衣装」(図4)とは、ベルトおよびそのベルトから吊り下がるビーズエプロン⁸⁾、尻尾、垂れ布(hip drape)、ツバメ形ペンダントで構成される衣装のことである。古くはナルメル王のパレットに見られ、その後も主に王の衣装としてレリーフなどに表現された(Patch 1995)。また中王国時代には、王族以外も図像として「下エジプト王様式の衣装」をオブジェクト・フリーズ(frise d'objets)や人型木棺に描くことができた。さらに当該時期には、ビーズエプロンやツバメ形ペンダントが実際の遺物として、主に「宮廷様式の埋葬」から出土するようになる(Grajetzki 2014: 27, 28, 52, 67, 148; Grajetzki 2010: 93)。パッチ(Patch, D.C.)によると、「下エジプト王様式の衣装」は王とラー神とのつながりを強調する役割を担っており、ラー神の復活のシンボルとして身に着けられたということである(Patch 1995: 115-116)。

ここでは、改めて「下エジプト王様式の衣装」に属する装身具・アミュレットの出土傾向を分析する。また、「宮廷様式の埋葬」には、笏、棍棒、殻笄など王権の象徴が副葬されているが、殻笄には先端が平坦な円錐形ビーズが多数使われており、分析対象墓からも出土している。そこで、殻笄は本来装身具やアミュレットではないが、「宮廷様式の埋葬」および「下エジプト王様式の衣装」と関係することから、殻笄ビーズの出土傾向も分析していく。

< 「下エジプト王様式の衣装」 >

まず、本分析において「下エジプト王様式の衣装」に属するものは、ビーズエプロン、ツバメ形ペンダント、尻尾が確認された。ビーズエプロンと尻尾が出土した墓は、それぞれ1基のみが中王国時代前半の墓で、その他は全て中王国時代後半の墓である。そして、ツバメ形ペンダントの出土墓に至っては、全てが中王国時代後半に年代づけられる(表3)。つまり、これらは中王国時代後半になって増加したと指摘することができる。

また、これら3種類の装身具およびアミュレットは、セットで副葬されているということが言える。なぜなら、表3に示したそれぞれの遺跡の墓は、全て同一の墓だからである。つまり、ビーズエプロンが出土したダハシュール遺跡の3基とツバメ形ペンダントが出土したダハシュール遺跡の3基は同一墓なのである。表にある他遺跡の墓についても同様である。

「下エジプト王様式の衣装」が出土した地域と被葬者の社会的地位に注目してみると、中王国時代前半は中部エジプト地域のいわゆる地方豪族の墓のみであったのに対して、中王国時代後半になると、メンフィス・ファイユーム地域の王族あるいは王族と深い関係にあったと思われる被葬者の墓に限定される。

表3 「下エジプト王様式の衣装」の出土傾向
Pl.3 Number of tombs which contain "Lower Egyptian Costume"

	遺跡名	時期	出土墓数
ビーズエプロン	ダハシュール	中王国後半	3
	リシエト	中王国後半	1
	ハラ	中王国後半	1
	デル・エル＝ベルシヤ	中王国前半	1
ツバメ形ペンダント	ダハシュール	中王国後半	3
	リシエト	中王国後半	1
	ハラ	中王国後半	1
尻尾	リシエト	中王国後半	1
	ハラ	中王国後半	1
	デル・エル＝ベルシヤ	中王国前半	1

＜殻竿ビーズ＞

完形の殻竿と殻竿ビーズの出土傾向を見ると、本分析では1基のみ中王国時代前半の墓で、他は大半が中王国時代後半の墓からの出土である（表4）。したがって、殻竿もおそらく中王国時代後半に増加したことが示唆される。

唯一中王国時代前半に年代づけられるデル・エル＝ベルシャ遺跡の墓と、中王国時代後半のリシェト、ハワラ遺跡の墓は、「下エジプト王様式の衣装」が出土した墓と同一である。さらに、ダハシュール遺跡の4基のうち2基からも「下エジプト王様式の衣装」に属する装身具が出土している。

殻竿が出土した地域を見てみると、「下エジプト王様式の衣装」と同じく、中王国時代前半は中部エジプト地域の墓のみであったのに対して、中王国時代後半になるとメンフィス・ファイユーム地域の墓からも出土するようになる。しかし、引き続き中部エジプト地域からの出土例も認められる。また、殻竿が副葬された被葬者の社会的地位は、王族が中心であるものの、「下エジプト王様式の衣装」とは異なり、ハラガ遺跡やマイル遺跡に埋葬された王族以外の墓からも多数出土している。

表4 殻竿・殻竿ビーズの出土傾向
Pl.4 Number of tombs which contain frail

	遺跡名	時期	出土墓数
殻竿	ダハシュール	中王国後半	4
	リシェト	中王国後半	1
	リッカ	センウセレット1世～センウセレット3世治世	1
	ハワラ	中王国後半	1
	ハラガ	中王国後半、センウセレット2世～アメンエムハト3世治世	9
	デル・エル＝ベルシャ	中王国前半	1
	マイル	中王国後半	1

6. 小結

ここでは、分析から明らかになったことをまとめ、若干の考察を加えたい。

まず、中王国時代に最も副葬品として利用された装身具は、出土墓数の多さから首飾りであることが分かった。そして、同じ首飾りでも、襟飾りと一連首飾りとは分布に違いが見られた。一連首飾りは、南部エジプト地域において主要な装身具であったのに対して、襟飾りは、圧倒的にメンフィス・ファイユーム地域における利用が多いのである。また、首飾りの次に多くの墓から出土するのは腕輪であった。そして、腕輪も種類によって分布に違いがあることが判明した。幅広・幅狭腕輪は、ほとんどがメンフィス・ファイユーム地域から出土する一方、一連腕輪は南部エジプト地域に多いのである。しかし、腕輪の出土墓数は、首飾りと比べると圧倒的に少ない。王女の墓からは、襟飾りと腕輪がセットで出土する場合が頻繁に見られるが、王族でない被葬者の墓からは、腕輪は副葬されず襟飾りのみが出土する例が見受けられる。未盗掘で発見された、テティピラミッド墓地の第129号墓（Firth and Gunn 1926: 60-61）などがこれに該当する。つまり、最重要視されたのは首飾りであり、社会的地位が高い者や副葬品の中でも装身具に重きを置いている者は、首飾りに加え腕輪を副葬したのだと考えられる。

続いて、「宮廷様式の埋葬」に副葬品として含まれる「下エジプト王様式の衣装」と殻竿は、中王国時代後半にメンフィス・ファイユーム地域を中心に出土するということであった。また、少数ではあるが、中部

エジプト地域からも出土している。いずれも、南部エジプト地域からの出土例はない。そして、「下エジプト王様式の衣装」は、いわゆる地方豪族など非常に社会的地位の高い被葬者に限定して出土するということであった。特に中王国時代後半には、メンフィス・ファイユーム地域に埋葬された王族に限って副葬されるようになる⁹⁾。所有者が王族以外の人型木棺に、図像としてビーズエプロンが描かれた例はあるものの(図5)、中王国時代後半では、王族以外の墓から実物が出土した例は今までのところ確認されていない。以上から、「下エジプト王様式の衣装」に属する装身具の存在は、王族以外の人々にも知られていたが、実際の副葬品としては王族が占有していた可能性が考えられる。穀竿も、王族の墓から頻繁に出土するが、「下エジプト王様式の衣装」よりも副葬される社会階層は広い。たとえば、ハラガ遺跡では、多数の王族でない墓からの出土例が認められるのである(Engelbach 1923)。よって、同じく「宮廷様式の埋葬」をされた被葬者でも、王族であるか否かによってその副葬品の内容には違いがあると言える。



図5 ビーズエプロンが描かれた人型木棺 (Baba and Yoshimura 2010, p.11)
Fig.5 Anthropoid coffin painted apron

7. 装身具にみられる地域性の要因について

首飾りや腕輪といった主要な装身具は、その形状によって地理的分布が異なることが分かった。では、その違いは一体何に起因しているのだろうか。装身具の形状から考えると、一連首飾りや一連腕輪より襟飾りや幅広・幅狭腕輪の方が多量のビーズを使っており、高い製作技術も必要になると考えられる。しかし、素材に目を向けてみると、王族の墓から出土した襟飾りや幅広腕輪を除けば、金、銀、準貴石など高価な素材が使われている例は少ない。対して、南部エジプト地域特にアビュドス遺跡から出土する一連首飾りには、金や準貴石が頻繁に使われている。さらに、他の装身具にも金や銀、そして様々な準貴石が用いられているのである。つまり、アビュドス遺跡を中心とした南部エジプト地域に埋葬された被葬者は、決して経済力が理由で襟飾りや幅広・幅狭腕輪を副葬できなかった訳ではないと推測できる¹⁰⁾。彼らは、あえて一連首飾りや一連腕輪を副葬するという選択をしたのではないだろうか。しかも、それらを高価な素材で製作することに重点を置いていたと考えられる。以上より、副葬される装身具には、襟飾りと幅広・幅狭腕輪を重視する「メンフィス・ファイユーム地域様式」と、一連首飾り・一連腕輪を重視する特にアビュドス遺跡を中心とした「南部エジプト地域様式」のような、地域による副葬品選択のあり方が存在した可能性が指摘できる。そして、このような埋葬習慣の違いは、地域によって異なる価値観や埋葬における理想に根差していると考えられる。なお、中部エジプト地域については、副葬品の選択に関しても他2地域の間中に位置しているように思われるが、襟飾りが分析対象墓の半分以上から出土していることより、メンフィス・ファイユーム地域の影響を強く受けていた様子がうかがえる。

「下エジプト王様式の衣装」と穀竿は、主に中王国時代後半において、メンフィス・ファイユーム地域を

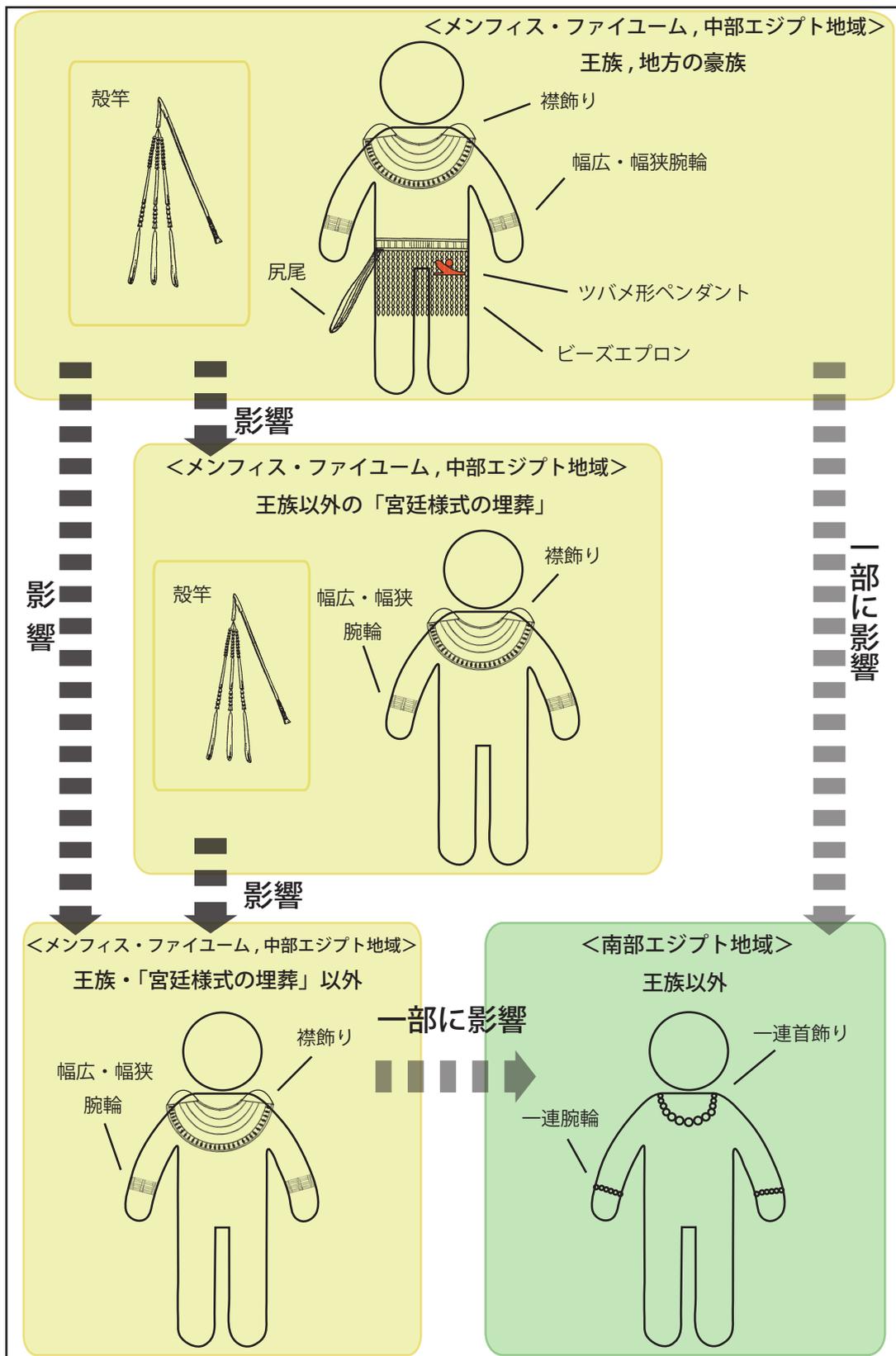


図6 装身具にみられる地域・社会階層による違い
 (一部に Mace and Winlock 1916, fig.75、Lacau 1906, figs.95, 408, 430, 425 を引用して作成)
 Fig.6 Variation of funerary jewelry in each region and social level

中心に出土するということであった。これには、王族の埋葬地が大きく関係していると考えられる。いずれも本来は王権の象徴であるため、王族の墓を中心に出土するのは当然であろう。それゆえ、伝統的に王族の墓が造営されたメンフィス・ファイユーム地域から集中して出土したと言える。そして、その影響を受けた王族以外の被葬者が王族を真似て副葬品を選択したため、さらに当該地域から「宮廷様式の埋葬」に含まれる副葬品の出土が増加したと考えられるのである。「下エジプト王様式の衣装」は、王族以外に実物として真似されることはなかったようだが、人型木棺に描かれた例は、やはりメンフィス・ファイユーム地域に該当するダハシュール遺跡で確認されている (Baba and Yoshimura 2010)。

先述の襟飾りと幅広腕輪も、王族の墓から主要な装身具として出土している。そのため、本来は「下エジプト王様式の衣装」のように、王族の衣装の一部であった可能性が考えられる。そして、やはりその影響で、王族以外の人々もそれらの装身具を副葬品として利用するようになったのではないだろうか。つまり、「メンフィス・ファイユーム地域様式の装身具」は、「王族の衣装に属する装身具」と言い換えることが出来よう。メンフィス・ファイユーム地域の人々は、王族の埋葬を理想として副葬品の選択をしたということである。一方、アピュドス遺跡を中心とする南部エジプト地域の人々は、王族の埋葬以外のところに理想を求めたため、副葬品において、メンフィス・ファイユーム地域の人々とは異なる選択をおこなったのだと考えられる。しかし、南部エジプト地域の中で、テーベからは「メンフィス・ファイユーム地域様式」の装身具が副葬された墓が数基確認されている。これは、中王国時代がテーベを拠点として始まり、王族が中王国時代初期にはテーベに埋葬されたことの影響が指摘できる。中王国時代後半においても、宮廷と何らかの関係があったと思われるテーベに埋葬された被葬者は、その影響を受け続けたと考えられる。

以上、装身具にみられる地域性の要因として、各地域が持つ埋葬における理想の違いを指摘した。まず、メンフィス・ファイユーム地域では、王族の埋葬を理想とし、副葬品を選択していた様子がうかがえた。中部エジプト地域についても、メンフィス・ファイユーム地域に似た副葬品の選択をおこなっていたということであった。一方、南部エジプト地域では一部の被葬者を除いて、王権の象徴といった装身具の形状よりも、高価な素材で一連首飾りや腕輪を製作することが理想とされた可能性を指摘した。

8. おわりに

装身具の種類ごとの分布状況を辿る中で、地域や社会階層によって、副葬する装身具が異なることが分かった。特に、メンフィス・ファイユーム地域と南部エジプト地域との間では、副葬される主要な装身具に大きな違いがみられた。そして、その要因として、副葬品における理想自体が異なっていた可能性を指摘した。メンフィス・ファイユーム地域の人々は、おそらく王族の埋葬を理想として、副葬品を選択していたのであろう。これまであまり注目されなかった装身具から、中王国時代の埋葬習慣について論じた点で、本論は当該時期の研究において有益であったと思われる。

しかし、本研究にはいくつかの課題点もある。まずそれは、被葬者の性別に関する考察をほとんどおこなっていない点である。装身具は男女両方の墓から出土するものの、性別によって出土する装身具の種類や素材に違いが見られる可能性がある。そのため、今後は被葬者の性別に注目して分析・考察をおこない、当時の埋葬習慣についてより細部まで明らかにする必要がある。次に、中部エジプト地域の資料が著しく少ない点も課題として挙げられる。中部エジプト地域は、中王国時代における社会の変化を知る上で、非常に重要な位置を占める。しかし、本論では資料数が少なかつたため、十分な分析や考察ができなかつた。今後は資料収集を進め、当該地域についての研究を深めることが必要である。以上2点が本論において特に大きな課題である。

本論の成果と課題をふまえ、最後に今後の展望について述べたい。今回は、中王国時代の装身具のみを対象としたが、装身具はどの時代においても一般的な副葬品であり、中王国時代以前・以降の墓からも出土する。本来、埋葬習慣を含めた文化は、時代ごとで明確に分かれるわけではなく、それまでの伝統を引き継ぎながら変化していくものである。したがって、連続する時代に目を向けることは、より深い対象時代への理解につながる。そのため、今後は古王国時代や新王国時代の装身具にも研究の幅を広げていきたい。さらに、装身具だけでなく、その他副葬品、墓の構造、棺の様式など、より広範囲な視点から検証を加えることで、中王国時代の埋葬習慣についてより深く理解できると考える。

謝辞

本稿は、2014年度に早稲田大学文学部考古学コースに提出した卒業論文の一部を核として大幅に書き直したものである。卒業論文の執筆時より、指導教授の近藤二郎先生にご教示を賜った。そして、早稲田大学文化構想学部助教の馬場匡浩先生、早稲田大学エジプト学研究所の矢澤健氏には、構想の段階からお世話になり、原稿を読んでいただいた上で数々のご指摘も賜った。また、早稲田大学大学院博士後期課程の竹野内恵太氏には、特に分析方法について多数の有益なアドバイスを賜った。ここに心より感謝を申し上げたい。

註

- 1) この地域区分は、ボリオ (Bourriau, J.) によるもの (Bourriau 1991: 5) を採用している。また、リファ遺跡は、ボリオの言う中部エジプトの南端アシュートに近いため、中部エジプト地域に区分した。
- 2) これら 160 基以外に、装身具が副葬された墓として 193 基が確認された。しかし、いずれも装身具の形態は不明であったため、本論の分析対象には含めていない。
- 3) 古代エジプトの装身具は、身体の装飾以外に呪術的機能を持っているものが多い。たとえば、襟飾りはミイラの保護において特別な力を与えるとされ、「死者の書」の中でも、ミイラに襟飾りを着けるように指示がされている (Andrews 1984: 38)。また、ビーズ腰飾りには、特に子安貝形ビーズを連ねたものが多く見られるが、これは女性を護る役割を担っていたことが指摘されている (Andrews 1990: 173)。
- 4) 「宮廷様式の埋葬」とは、ダハシュール、リシエト、ハワラ遺跡において未盗掘で見つかった王家の女性に代表される埋葬の形態を指す (Grajetzki 2010: 92)。グライエツキーによると、そこにはいくつかの共通するパターンが見出せる。まず、被葬者は複数の棺に埋葬され、しばしば内棺には人型木棺が用いられる。そして、副葬品は王家の象徴が中心であり、笏、棍棒、杖、穀竿、短剣、弓、矢などが含まれる。さらに、「宮廷様式の埋葬」をされた被葬者の中には、上述の副葬品に加えてビーズエプロンや聖水を入れるための石製容器などが副葬されている例も見られる。また、ミニアッチ (Miniaci, G.) は、王族以外の墓にも「宮廷様式の埋葬」が見られることを指摘し、「Court type burials」ではなく「オシリス神化 (“Osirification”）」の埋葬と言う方がよりふさわしいと述べている (Miniaci 2011: 2)。
- 5) ただし、一連首飾りと同様で、一連腕輪も墓の残存状況や発掘報告書の精度によって、差が生れてしまうという点に留意する必要がある。
- 6) ただし、ベニ・ハサンからは “bar-beads” と説明されたビーズが出土しており、これがスパーサービーズだとすれば、幅広腕輪が副葬されていた可能性がある。
- 7) 中王国時代のうち、センウセレト 3 世治世以前を中王国時代前半、以降を中王国時代後半とする。この時期区分は広く使用されており、センウセレト 3 世の治世を画期に、副葬品など物質文化に変化がみられることが指摘されている (Grajetzki 2003, 2006, 2014; Bourriau 1991)。
- 8) これ以降はビーズエプロンと呼称する。
- 9) リシエト遺跡のセネブティシの墓は、被葬者が王族であるかは定かではない。しかし、社会階層が非常に高かったことは明確である (Grajetzki 2014: 34-35)。
- 10) アビュドスでは、高価な素材で製作された副葬品が幅広い社会階層の墓から出土しており、厳しい行政の支配を受けずに、自由な経済活動を行うことが出来た人々の存在をリチャーズ (Richards, J.) は指摘している (Richards 2005: 176)。このことから、やはり彼らは経済力が理由で襟飾りや幅広・幅狭腕輪を副葬できなかった訳ではないと言える。

参考文献

- Aldred, C.
1971 *Jewels of the Pharaohs*, London.
- Andrews, C.
1984 *Egyptian Mummies*, London.
1990 *Ancient Egyptian Jewellery*, London
1994 *Amulets of Ancient Egypt*, London.
- Arnold, D.
1992 *The Pyramid Complex of Senwosret I: The South Cemeteries of Lisht, III*, New York.
- Baba, M. and S. Yoshimura
2010 "Dahshur North : Intact Middle and New Kingdom Coffins", *Egyptian Archaeology* 37 (Autumn), pp. 9-12.
2011 "Ritual Activities in Middle Kingdom Egypt: A View from Intact Tombs Discovered at dahshur North", in Bárta, M., Coppens, F. and Krejčí, J. (eds.) *Abusir and Saqqara in the Year 2010/1*, pp.158-170.
- Bourriau, J.
1991 "Patterns of Change in Burial Customs During the Middle Kingdom", in Quirke, S. (ed.), *Middle Kingdom Studies*, New Malden, pp.3-20.
- Brunton, G.
1920 *Lahun I: The Treasure*, London.
1927 *Qau and Badari I*, London.
- D'Auria, S., P. Lacovara and C.H. Roehrig
1988 *Mummies and Magic: the Funerary Arts of Ancient Egypt*, Boston.
- Eaton, E.S.
1941 "A Group of Middle Kingdom Jewellery", *Bulletin of the Museum of Fine Arts* 39, no.236, pp.94-98.
- Engelbach, R.
1915 *Riqqeh and Memphis VI*, London.
1923 *Harageh*, London.
- Farag, N., Z. Iskander
1971 *The Discovery of Neferuptah*, Cairo.
- Firth, C.M. and B. Gunn
1926 *Teti Pyramid Cemeteries*, Cairo.
- Frankfort, H.
1930 "The Cemeteries of Abydos: Work of the Season 1925-26.", *Journal of Egyptian Archaeology* 16, pp. 213-19.
- Garstang, J.
1902 *El-Arabah, a Cemetery of the Middle Kingdom: Survey of the Old Kingdom Temenos: Graffiti from the Temple of Sety*, London.
1907 *Burial Customs of Ancient Egypt: As Illustrated by Tombs of the Middle Kingdom, A Report of Excavations made in the Necropolis of Beni Hassan during 1902-3-4*, London.
- Grajetzki, W.
2003 *Burial Customs in Ancient Egypt: Life in Death for Rich and Poor*, London.
2005 *Sedment: Burials of Egyptian Farmers and Noblemen over Centuries*, London.
2006 *The Middle Kingdom of Ancient Egypt*, London.
2010 *The Coffin of Zemathor and Other Rectangular Coffins of the Late Middle Kingdom and second Intermediate period*, London.
2014 *Tomb Treasures of the Middle Kingdom: The Archaeology of Female Burials*, Philadelphia.
- Hayes, W.C.
1953 *The Scepter of Egypt I: From the Earliest Times to the End of the Middle Kingdom*, New York.
- Kamal, A.B.
1901 "Report sur les fouilles exécutées à Deïe-el-Bershé." *ASAE* 2, pp. 206-22.
- Lacau, P.
1906 *Sarcophages antérieurs au Nouvel Empire vol.II*, Cairo.
- Lansing, A. and W.C. Hayes
1934 "The Egyptian Expedition: The Excavations at Lisht", *The Metropolitan Museum of Art Bulletin*, Vol. 29, No. 11, Part 2: *The Egyptian Expedition 1933-1934*, pp. 4-41.

- Mace, A.C. and H.E. Winlock
1916 *The Tomb of Senebtisi at Lisht*, New York.
- Miniaci, G.
2011 *Rishi Coffins and the Funerary Culture of Second Intermediate Period Egypt*, London.
- de Morgan, J.
1895 *Fouilles a Dahchour, Mars-Juin 1894*, Vienna.
1903 *Fouilles a Dahchour 1895*, Vienna.
- Patch, D.C.
1995 “A “Lower Egyptian” Costume: Its Origin, Development, and Meaning”, *Journal of the American Research Center in Egypt* 32, pp.93-116.
- Peet, T.E.
1914 *Cemeteries of Abydos Part II.1911-1912*, London.
- Peet, T.E. and W.L.S.Loat,
1914 *Cemeteries of Abydos Part III.1912-1913*, London.
- Petrie, W.M.F.
1901 *Diopolis Parva: The Cemeteries of Abadiyeh and Hu, 1898-9*, London.
1907 *Gizeh and Rifeh*, London.
1914 *Amulets*, London.
- Petrie, F., G.Brunton and M.A.Murray
1923 *Lahun II*, London.
- Richards, J.
2005 *Society and Death in Ancient Egypt: Mortuary Landscapes of the Middle Kingdom*, Cambridge.
- Roehrig, C.
2003 “The Middle Kingdom Tomb of Wah at Thebes”, in Strudwick, N. and J.H.Taylor (eds.), *The Theban Necropolis: Past, Present and Future*, London, pp.11-13.
- Wegner, J.
2010 “Tradition and Innovation: The Middle Kingdom”, in Wendrich, W. (ed.), *Egyptian Archaeology*, West Sussex, pp.119-142.
- Winlock, H.E.
1934 *The Treasure of El Lahun*, New York.
- メトロポリタン美術館ホームページ <http://www.metmuseum.org/>

本論の分析で用いた墓のリストを下に載せる（表5）。色・素材、個数の表記方法は以下の通りである。

色 : bl: blue/ bla: black/ bro: brown/ gr: green/ gre: grey/ pi: pink/ re: red/ wh: white/ ye: yellow

素材 : ag: agate/ al: alabaster/ am: amethyst/ ba: basalt/ be: beryl/ bo: bone/ br: bronze/ bre: breccia/ ca: carnelian/ ch: chert/ cl: clay/ co: copper/ cr: crystal/ di: diorite/ el: electrum/ Eg.bl: Egyptian blue/ eg: egg/ em: emerald/ fa: faience/ fe: feldspar/ fl: flint/ ga: garnet/ gl: glazed (gl.st.: glazed steatite)/ gla: glass/ gi: gilt (gi.co: gilt copper), (gi.wo: gilt wood)/ go: gold (gold foil を含む)/ gra: granite/ he: hematite/ hi.tu: hippopotamus tusk/ iv: ivory/ ja: jasper/ la: lapis lazuli/ li: limestone/ linen: linen/ ma: marble/ me: metal/ mu: mud/ ob: obsidian/ on: onyx/ po: pottery/ por: porphyry/ qu: quartz/ se: serpentine/ semiprecious stones: semiprecious stones/ sh: shell/ si: silver/ sl: slate/ st: steatite (bl.gl.st: blue glazed steatite)/ steaschist: steaschist/ sto: stone/ tu: turquoise/ wo: wood

表記例 : 遺物名称+点数+ (色, 素材) 例1. 襟飾り 1(bl.fa) (=「青色ファイアンス製襟飾りが1点出土」)、例2. ハヤブサ形ペンダント 2(go) (si) (=「ハヤブサ形ペンダントが2点出土。うち1点は金製、もう1点は銀製」)

表 5-1 分析対象墓リスト
PL1-1 List of tombs

出土地・被葬者	時代	出土した装身具	参考文献
サッカラ ティピラミッド墓地 HMK6墓	中王国前半	髪飾り(fa, si, sto), 襟飾り 1(fa), 球形ビーズ首飾り 2(ef) (ca, go, gr, fa), 多様な形のビーズ首飾り(ca, gl, st), 管状ビーズ腕輪(gr, fa), 小ビーズ腕輪(ca, la), 管状ビーズ足輪(gl)	Firth and Gunn 1926
サッカラ ティピラミッド墓地 HMK26墓、木棺・Ipi'nhw	中王国前半	襟飾り 2(gi, wo, gr, st), セウレットビーズ 1(ca), bs形ペンダント 1(gi, wo), 幅広腕輪(bl, fa) 2, 金属製腕輪(co, gi, co) 2, 幅狭足輪 2(bl, fa)	Firth and Gunn 1926
サッカラ ティピラミッド墓地 HMK30墓・Gemmehat	中王国前半 (アメンエムハト1世治世)	襟飾り 1(ca, gi, wo, gr, st), セウレットビーズ 1(ca), 球形ビーズ首飾り 1(gi, wo), 管状・樽形ビーズ首飾り 1(ca, gr, st), bs形ペンダント 1(gi, wo), 幅狭腕輪(gr, st) 4	Firth and Gunn 1926
サッカラ ティピラミッド墓地 HMK69墓・Iphersesenbef	中王国前半	襟飾り 1(bl, fa, bla, fa), bs形ペンダント 1(gi, wo), 幅狭腕輪 2(bl, fa, bla, fa)	Firth and Gunn 1926
サッカラ ティピラミッド墓地 41墓・Hetepet (htpt)	中王国後半	貝形ペンダント(go) (si), 球形ビーズ首飾り 3(am) (ca) (go), 球形ビーズとライオン形ビーズ腕輪 1 or 2(go, gr, fe, la), 子安貝形ビーズ腰飾り (si)	Firth and Gunn 1926
サッカラ ティピラミッド墓地 129B墓	中王国後半	襟飾り 1(bla, sto, fa, go)	Firth and Gunn 1926
サッカラ ティピラミッド墓地 129C墓	中王国後半	襟飾り 1(gl)	Firth and Gunn 1926
サッカラ ティピラミッド墓地 206墓	中王国後半	貝形ペンダント首飾り(go), hnt形ビーズ首飾り, 樽形・小ビーズ首飾り (ca, go)	Firth and Gunn 1926
サッカラ ティピラミッド墓地 30墓	中王国後半?	球形ビーズ首飾り 1(go), セウレットビーズ 1(ca)	Firth and Gunn 1926
サッカラ ティピラミッド墓地 118墓	中王国後半?	襟飾り 1(bl, fa, gr, fa), 球形ビーズ首飾り 2(go) (si), 幅狭足輪(fa)	Firth and Gunn 1926
ダハシュール北 シャフト 54	中王国後半(第12王朝末~第13王朝)	ビーズ腕輪 1(fa), スカラベ付き指輪 1(fa)	Baba and Yoshimura 2011
ダハシュール アメンエムハト2世ピラミッド複合体・Ita(王女)	中王国後半(アメンエムハト3世治世)	襟飾り 1(ターミナル: si, ビーズ: ca, la, tu, na), 幅広腕輪 2(go), 金属製腕輪 2(go), ビーズ腕輪 2, ビーズ腰飾り (ca, gr, gl), ツバメ形ペンダント(ca), ビーズエブロン	de Morgan 1903
ダハシュール アメンエムハト2世ピラミッド複合体・Khenmet(王女)	中王国後半(アメンエムハト3世治世)	環状頭飾り 2(ca, go, la, tu) (ca, go, la, ob, tu), 襟飾り 1(go, la), 幅広首飾り, 3w ib形ペンダント 1, s'nh bs nb形ペンダント 2, ms形ペンダント 1, sn形ペンダント 2(ca, em, la), ロータス付きsn形ペンダント 1, 外国製ペンダント付き首飾り複数(ga, go), 幅広腕輪 2(ca, em, la), 金属製腕輪 複数 (go), 腕輪用留め金 8(go), ビーズ腕輪, 一連足輪に付かき爪形ペンダント 2(かき爪: ca, go, la)	de Morgan 1903
ダハシュール アメンエムハト3世ピラミッド複合体・Itweret(王女)	中王国後半(アメンエムハト3世治世)	ビーズ頭飾り(環状?), 襟飾り 1, 襟飾り用重り 1, 幅広腕輪(ca, go, bl), 幅広足輪(ca, go, bl)	de Morgan 1903
ダハシュール センウセト3世ピラミッド複合体・Sathator(王女)	中王国後半(アメンエムハト3世治世)	胸飾り(ベクトラル) 1(ca, go, la, tu), ntr, ib, htp形ペンダント, パピルス・ハトホル形ペンダント, 護符ケースに類似したペンダント 2(内1つはgo), 幅広腕輪 2(ca, go, la, tu), 金属製腕輪 2(go), スカラベ付き指輪(スカラベ: am, ring: go), 子安貝形ビーズ腰飾り 1(go), 貝形ビーズ腰飾り 1(go), 結び目形ビーズ腰飾り 1(go), 足輪に付かき爪形ペンダント 2(go)	de Morgan 1895
ダハシュール センウセト3世ピラミッド複合体・Mereret(王女)	中王国後半(センウセト3世~アメンエムハト3世治世)	胸飾り(ベクトラル) 2, 貝形ペンダント(go), 象嵌された貝形ペンダント 2(ca, go, la, tu), 貝形ペンダント・小ビーズ首飾り 1(貝形: go 26個, 小: go), sn形ペンダント 1(ca, go), 3w ib形ペンダント 3(ca, go), ntr ib htp形ペンダント 1(ca, go, na), s'nh nb形ペンダント 1(go, na), 金で縁取られた複数ペンダント付き首飾り(go), 管状ビーズ首飾り, 幅広腕輪用留め金 2, 金属製腕輪 2(go), 腕輪 2, 腕輪に付くライオン形ビーズ 4, 結び目形留め金 12(go), スカラベ付き指輪(ring: go), 外国製指輪 2(go), 子安貝形ビーズ腰飾り(go), doubleヒョウ頭形ビーズ腰飾り 1(go), 足輪に付かき爪形ペンダント 2(go)	de Morgan 1895
ダハシュール アメンエムハト3世ピラミッド複合体・Nubhetepi(王女)	中王国後半(第13王朝初期)	環状頭飾り 1(re, sto, si), 襟飾り 1, 襟飾り用重り 1, 幅広腕輪 2(ca, go), 幅広足輪 2(gr, fe, go), ツバメ形ペンダント 1(ca), ビーズエブロン	de Morgan 1895
ダハシュール アメンエムハト3世ピラミッド複合体・3w ib r' hr(王)	中王国後半(第13王朝初期)	環状頭飾りに付いていたとされる花形象嵌 (gi, wo), 襟飾り 2(ca) (go, wo), 襟飾り用重り 1(go, wo), ビーズ首飾り, 幅広腕輪 (gi, woなど), 幅広足輪(gi, woなど), ツバメ形ビーズ, ビーズエブロン	de Morgan 1895
リシエト センウセト1世ピラミッド複合体 シャフト7/12・Ankhty	中王国前半(センウセト1世)	ビーズ首飾り (bl, gl, ca, wh, gl)	Arnold 1992
リシエト南 mastaba west of Senwosretankh, Pit 3・Hepty	中王国前半(センウセト1世)	大ききの異なる樽形ビーズ首飾り 1(la), 球形ビーズ首飾り 1(go, ca), アカシアの種形ビーズ首飾り 1(go), 幅広腕輪 1?(go, la), 子安貝形ビーズ腰飾り 1(貝: go, 小樽: la), 幅広足輪 1(go, ?)	Lansing and Hayes 1934
リシエト センウセト1世ピラミッド複合体 5004墓・おそらく Minhotep	中王国後半(第13王朝初期)	いくつかの円盤形ビーズ(ca) (gr, bl, gl) (gi, sh)	Arnold 1992
リシエト セネプティシの墓・Senebtisi	中王国後半(第12王朝~第13王朝初期)	環状頭飾り 1(go), 髪飾り 98(go), セウレットビーズ 1(ca), 貝形ペンダント・小ビーズ首飾り 1(貝形: go 25個, 小: ca, fa, go, tu), 幅広首飾り 1(s形: ca, fe, iv, si, tu 21個, 小円盤: tu), sn形ペンダント・bs形ビーズ首飾り 1(sn形: ca, go 1個, bs形: ca, fa, go, tu 約64個), 首飾り用留め金(go), 襟飾り 3(co, go) (ca, fa, go, tu) (fa, go, tu), 幅広腕輪 2(gr, fa, go), アカシアのさや形・小ビーズ腰飾り 1(ca, go, la, おそらく iv, tu), 幅広足輪 2(gr, fa, go), ビーズエブロン 1(bl, fa, bla, fa, light gr, fa, dark gr, fa), 尻尾 1(fa, go, wa,), ツバメ形ペンダント 1(ca)	Mace and Winlock 1916
リシエト センウセト1世ピラミッド複合体 7/26墓	中王国(第12王朝?)	襟飾り (gr, fa, wh, fa)	Arnold 1992
リシエト センウセト1世ピラミッド複合体 19/41 [pit 207]墓	中王国(第12王朝?)	襟飾り用ビーズ 4(bl, fa)	Arnold 1992
リシエト センウセト1世ピラミッド複合体 シャフト19/41 [pit 207]	中王国(第12王朝?)	襟飾り (bl, gl, wh, gl, bla ビーズ), 幅狭足輪 2(bl, bla, ca)	Arnold 1992
リッカ Cemetery A 124墓	中王国後半	襟飾りを構成する大量の管状ビーズ, 胸飾り(ベクトラル), 貝形ペンダント(go), 2つのロタスがモチーフのペンダント	Engelbach 1915
リッカ Cemetery A 27墓	中王国(センウセト1世~センウセト3世)	セウレットビーズ 1(ca)	Engelbach 1915
リッカ Cemetery A, 7墓	中王国(センウセト1世~センウセト3世)	球形ビーズ 12(2: am) (10: ca) おそらく首飾り	Engelbach 1915
リッカ Cemetery A, 9墓・Hotep	中王国(センウセト1世~センウセト3世)	円錐形ビーズ首飾り (bl, po)	Engelbach 1915
リッカ Cemetery A, 73墓	中王国(センウセト1世~センウセト3世)	貝形ペンダント(go)	Engelbach 1915
リッカ Cemetery A, 135墓	中王国(センウセト1世~センウセト3世)	セウレットビーズ(ca)	Engelbach 1915
リッカ Cemetery A, 156墓	中王国(センウセト1世~センウセト3世)	ハヤブサ頭形ターミナル, 足輪(sh)	Engelbach 1915
リッカ Cemetery A, 189墓	中王国(センウセト1世~センウセト3世)	襟飾り用ビーズ	Engelbach 1915
リッカ Cemetery A, 192墓	中王国(センウセト1世~センウセト3世)	襟飾り用ビーズ	Engelbach 1915
リッカ Cemetery B, 210墓	中王国(センウセト1世~センウセト3世)	ビーズ首飾り(ca)	Engelbach 1915
リッカ Cemetery A, 516墓	中王国(センウセト1世~センウセト3世)	襟飾り用ビーズ(gl)	Engelbach 1915
リッカ Cemetery A, 518墓	中王国(センウセト1世~センウセト3世)	ハヤブサ頭形ターミナル(la)	Engelbach 1915
ハラワ ネフェルウプタハの墓・Nefertubah(王女)	中王国後半(第13王朝)	襟飾り 1(ca, gr, fe, go), 襟飾り用重り 1(ca, gr, fe, go), 樽形・管状ビーズ首飾り 2(樽: ca, gr, go), セウレットビーズ 1(ca), 幅広腕輪 2(ca, go, fe), 幅広足輪 2(ca, go), ツバメ形ペンダント 1(ca), ビーズエブロン 1(bl, gl, go, gr, fa, wh), 尻尾	Farag and Iskander 1971
ハラガ Cemetery B, 284墓	中王国おそらく後半(第12王朝)	襟飾り用ビーズ(light bl, gl), 半円形ターミナル(gr, gl)	Engelbach 1923
ハラガ Cemetery B, 308墓・Semnu	中王国おそらく後半(第12王朝)	貝形ペンダント(go), おそらく護符ケース(co, go, qu)	Engelbach 1923
ハラガ Cemetery S, 311墓	中王国おそらく後半(第12王朝)	貝形ペンダント(go)	Engelbach 1923
ハラガ Cemetery S, 312墓	中王国後半(アメンエムハト3世治世あるいはそれ以降)	貝形ペンダント(go)	Engelbach 1923

表 5-2 分析対象墓リスト
Pl.5-2 List of tombs

出土地・被葬者	時代	出土した装身具	参考文献
ハラガ Cemetery B, 320 墓	中王国おそらく後半 (第12王朝)	襟飾り用ビーズ(light bl.gl) (gr. gl), 半円形ターミナル(bl.gl)	Engelbach 1923
ハラガ Cemetery B, 336 墓	中王国おそらく後半 (第12王朝)	貝形ペンダント(go)	Engelbach 1923
ハラガ Cemetery B, 339 墓	中王国おそらく後半 (第12王朝)	襟飾り用ビーズ(light bl.gl)	Engelbach 1923
ハラガ Cemetery B, 341 墓	中王国おそらく後半 (第12王朝)	襟飾り用ビーズ(light bl.gl), 円形ターミナル(bl.gl)	Engelbach 1923
ハラガ Cemetery B, 345 墓	中王国おそらく後半 (第12王朝)	小貝形ペンダント (go)	Engelbach 1923
ハラガ Cemetery B, 348 墓	中王国おそらく後半 (第12王朝)	半円形ターミナル(light bl.gl)	Engelbach 1923
ハラガ Cemetery B, 357 墓	中王国おそらく後半 (第12王朝)	襟飾り用ビーズ(light bl.gl), 半円形ターミナル(light bl.gl)	Engelbach 1923
ハラガ Cemetery B, 377 墓	中王国おそらく後半 (第12王朝)	襟飾り用ビーズ(bl.gl), 円形ターミナル(light bl.gl)	Engelbach 1923
ハラガ Cemetery B, 380 墓	中王国おそらく後半 (第12王朝)	襟飾り用ビーズ(gr.gl)	Engelbach 1923
ハラガ Cemetery S, 391 墓	中王国おそらく後半 (第12王朝)	貝形ペンダント(ca)	Engelbach 1923
ハラガ Cemetery S, 620 墓	中王国後半 (アメンエムハト3世治世あるいはそれ以降)	貝形ペンダント(light bl.gl)	Engelbach 1923
ハラガ Cemetery A, 124 墓・Iytenhab	中王国 (センウセレット2世あるいはそれ以降)	おそらく胸飾り (ペクトラル) 22(si), 銀製の枠がつけられたペンダント 11*(sh, si), 子安貝ビーズ腰飾り	Engelbach 1923
ハラガ Cemetery Wady1, 515 墓	中王国 (センウセレット2世～第2中間期)	貝形ペンダント(ca)	Engelbach 1923
ハラガ Cemetery Wady1, 520 墓	中王国 (センウセレット2世～第2中間期)	貝形ペンダント(sh)	Engelbach 1923
ハラガ Cemetery Wady1, 524 墓	中王国 (センウセレット2世～第2中間期)	貝形ペンダント(light bl.gl)	Engelbach 1923
ハラガ Cemetery Wady1, 534 墓	中王国 (センウセレット2世～第2中間期)	貝形ペンダント(go)	Engelbach 1923
ハラガ Cemetery A, 3 墓・Bastet Htep	中王国 (センウセレット2世～アメンエムハト3世)	襟飾り用ビーズ(gr.gl), 半円形ターミナル (gr. gl)	Engelbach 1923
ハラガ Cemetery A, 17 墓	中王国 (センウセレット2世～アメンエムハト3世)	襟飾り用ビーズ(gr.gl), セウエレットビーズ(ca)	Engelbach 1923
ハラガ Cemetery A, 58 墓	中王国 (センウセレット2世～アメンエムハト3世)	襟飾り用ビーズ(gr.gl)	Engelbach 1923
ハラガ Cemetery A, 59 墓	中王国 (センウセレット2世～アメンエムハト3世)	襟飾り用ビーズ	Engelbach 1923
ハラガ Cemetery A, 64 墓	中王国 (センウセレット2世～アメンエムハト3世)	襟飾り用ビーズ(gr.gl)	Engelbach 1923
ハラガ Cemetery A, 66 墓	中王国 (センウセレット2世～アメンエムハト3世)	襟飾り用ビーズ(gr.gl)	Engelbach 1923
ハラガ Cemetery A, 70 墓	中王国 (センウセレット2世～アメンエムハト3世)	襟飾り用ビーズ(gr.gl), 半円形ターミナル (light bl.gl)	Engelbach 1923
ハラガ Cemetery A, 72 墓	中王国 (センウセレット2世～アメンエムハト3世)	畝模様の装飾がされた樽形ビーズ (おそらく首飾り) (ca) (go) (la) (tu), 大きさの異なる球形ビーズ (おそらく首飾り) (am) (gr. fe) (la)	Engelbach 1923
ハラガ Cemetery A, 81 墓	中王国 (センウセレット2世～アメンエムハト3世)	襟飾り用ビーズ(light bl.gl)	Engelbach 1923
ハラガ Cemetery A, 90 墓	中王国 (センウセレット2世～アメンエムハト3世)	貝形ペンダント(ca) (gr. fe)	Engelbach 1923
ハラガ Cemetery A, 96 墓	中王国 (センウセレット2世～アメンエムハト3世)	ハヤブサ頭形ターミナル	Engelbach 1923
ハラガ Cemetery A, 104 墓	中王国 (センウセレット2世～アメンエムハト3世)	半円形ターミナル	Engelbach 1923
ハラガ Cemetery A, 109 墓	中王国 (センウセレット2世～アメンエムハト3世)	半円形ターミナル(light bl.gl)	Engelbach 1923
ハラガ Cemetery A, 110 墓	中王国 (センウセレット2世～アメンエムハト3世)	襟飾り用ビーズ, 貝形ペンダント (gr.gl)	Engelbach 1923
ハラガ Cemetery A, 118 墓	中王国 (センウセレット2世～アメンエムハト3世)	襟飾り用ビーズ(gr.gl), 半円形ターミナル 2 種類 (gr.gl)	Engelbach 1923

出土地・被葬者	時代	出土した装身具	参考文献
ハラガ Cemetery A, 133 墓・Renf Senb	中王国 (センウセレット2世～アメンエムハト3世)	襟飾り用ビーズ (gr.gl)	Engelbach 1923
ハラガ Cemetery A, 143 墓	中王国 (センウセレット2世～アメンエムハト3世)	襟飾り用ビーズ (gr.gl), 半円形ターミナル (gr.gl)	Engelbach 1923
ハラガ Cemetery A, 154 墓	中王国 (センウセレット2世～アメンエムハト3世)	球形ビーズ首飾り, 貝形ペンダント 複数 (go)	Engelbach 1923
ハラガ Cemetery A, 159 墓	中王国 (センウセレット2世～アメンエムハト3世)	半円形ターミナル(light bl.gl)	Engelbach 1923
ハラガ Cemetery A, 161 墓	中王国 (センウセレット2世～アメンエムハト3世)	襟飾り用ビーズ (gr.gl)	Engelbach 1923
ハラガ Cemetery F, 67 墓	中王国 (第12王朝)	襟飾り用ビーズ (gr.gl) (gr.gl), 半円形ターミナル(light bl.gl)	Engelbach 1923
ハラガ Cemetery -, 265 墓	中王国	襟飾り用ビーズ(bl.gl)	Engelbach 1923
ハラガ Cemetery NZ?, 322 墓	中王国 (第12王朝)	襟飾り用ビーズ (gr.gl)	Engelbach 1923
ハラガ Cemetery E, 600 墓	中王国	襟飾り用ビーズ (gr.gl)	Engelbach 1923
ハラガ Cemetery E, 605 墓	中王国	半円形ターミナル(light bl.gl)	Engelbach 1923
ハラガ Cemetery E, 614 墓	中王国	襟飾り用ビーズ (gr.gl), 半円形ターミナル (bl.gl)	Engelbach 1923
ラフン 8墓・Sathorurinet (王女)	中王国後半 (アメンエムハト3世治世)	環状頭飾り 1(ca, go, la), 胸飾り (ペクトラル) 2(ca, go, la, tu) (am, ca, gr. fa, go, la), 球形ビーズ 74(ca) (go) (fe) (la), sn形ペンダント 2(go, semiprecious stones), 3w ib形ペンダント 1(go, semiprecious stones), 8, *nh nb形ペンダント 1(go, semiprecious stones), ib ntr htp形ペンダント 1(go, semiprecious stones), 幅広い腕輪 2(go, semiprecious stones), ライオン形・球形ビーズ腕輪 2(ライオン: go), スカラベ付き指輪 2(スカラベ: ca, go, la, リング: go), 子安貝形・アカシアのさや形ビーズ腰飾り 1(子安貝: go, アカシアのさや: ca, fe, go), doubleヒョウ頭形ビーズ腰飾り 1(go), かぎ爪形ペンダント・球形ビーズ足輪 2(かぎ爪: go, 球形: am, go)	Brunton 1920; Petrie, Brunton and Murray 1923; Winlock 1934
セドメント 1512 墓	第1中間期または中王国初頭	襟飾り 1 (gr.gl, fa), 足輪 2	Grajczki 2005
ベニ・ハサン 575 墓・Khty-a	中王国前半 (模型あり)	襟飾り用の大量ビーズ	Garstang 1907
ベニ・ハサン 186 墓・Nefwa	中王国前半 (11王朝末～アメンエムハト1世治世)	襟飾り (bl, bla, gl)	Garstang 1907
ベニ・ハサン 269 墓・Zaay	中王国前半 (模型あり)	襟飾り用ペンダント (bl, gl)	Garstang 1907
ベニ・ハサン 720 墓	中王国前半 (模型あり)	ハヤブサ頭形ターミナル 2	Garstang 1907
ベニ・ハサン 487 墓・Seneb	中王国後半	球形ビーズ首飾り (ca) (ja), 護符ケースに類似したペンダント 3 (ca, gr. gl, bla, gl, go), 金属製腕輪 2 (si), スカラベ付き指輪 1 (リング: go)	Garstang 1907
ベニ・ハサン 761 墓	中王国後半	半円形ターミナル 2 (gl)	Garstang 1907
ベニ・ハサン 39 墓・rdt *nh	中王国 (前半?)	小ビーズ・ハヤブサ形ペンダント首飾り (小: bl, gl, gr. gl, ca, ハヤブサ: si 2個), 球形ビーズ首飾り (gr. gl)	Garstang 1907
ベニ・ハサン 65 墓・Senu-Atef, Red-Hetep, Meru	中王国 (前半?)	球形ビーズ首飾り 3 (am) (gr. fa) (gl)	Garstang 1907
ベニ・ハサン 73 墓	中王国 (前半?)	半円形ターミナル 2 (bl, gl), bar-beads (bl, gl), ビーズ (wo)	Garstang 1907
ベニ・ハサン 94 墓・Khenemu	中王国 (前半?)	半円形ターミナル 2 (bl, gl)	Garstang 1907
ベニ・ハサン 662 墓・hty	中王国 (前半?)	ハヤブサ頭形ターミナル 2 (gr. gl)	Garstang 1907
ベルシヤ Djehuty-nakht・Djehuty-nakht (dhwty-nht)	中王国前半 (おそらくアメンエムハト2世治世)	ビーズエブロン (ca, go), 尻尾	Kamal 1901
ベルシヤ tomb 10A・Djehuty-nakht	中王国前半 (第11王朝)	襟飾り 3 (bl, fa) (bla, fa, gr. fa) (bl, fa), 貝ビーズ首飾り (sh), ビーズ首飾り, ビーズ腕輪, 金属製腕輪 (go), ビーズ足輪	D'Auria, Lacovara and Roehrig 1988
メイル Tomb of Hapiankhifi	中王国 (第12王朝) おそらく後半	髪飾り (wo), 襟飾り 2 (bl, bla, gr. fa) (wo, gold leaf), セウエレットビーズ 1 (ca, fa), 球形ビーズ首飾り 2 (bl, fa) (ob, si), ペンダント付き首飾り 1 (ca, go, tu, am, ga, si)	http://www.mtmuseum.org/
リファ tomb of Khnum-hotep, (332)・Khnum-hotep	中王国後半	小ビーズ首飾り 1 (bl), スカラベ付きおそらく指輪 1	Petrie 1907

表 5-3 分析対象墓リスト
PL.5-1 List of tombs

出土地・被葬者	時代	出土した装身具	参考文献
リファ tomb of Khnum-hotep. (333)	中王国後半	スカラベ付き指輪 1、ビーズ 2(ca)	Petrie 1907
リファ tomb of Khnum-hotep. (334)・Ankhet	中王国後半	首飾りを構成する小球形ビーズ 1(am)、首飾りを構成する小ビーズ 2(si)	Petrie 1907
リファ Khnum-hotepの墓の南	中王国後半	貝形ペンダント 1(go)	Petrie 1907
バダリ 5311墓	第11王朝	首飾りを構成する管状ビーズ 1(bl.gl.st)、小ビーズ首飾り(bl.gl)、小石ビーズ 1	Brunton 1927
カウ 670墓	第11王朝	首飾りを構成する球形ビーズ(bl.gl)、小ビーズ首飾り(bl.gl)	Brunton 1927
カウ 4944墓	第11王朝	小ビーズ首飾り 2(gr.gl) (bl.gl)	Brunton 1927
カウ 4980墓	第11王朝	首飾りを構成する管状ビーズ(bl.gl.st)、小ビーズ首飾り(bl.gl)	Brunton 1927
カウ 南墓地 665墓	第11王朝	首飾りを構成する管状ビーズ 1(bl.gl.st)、小ビーズ首飾り(bl.gl)	Brunton 1927
ナガ・エッデイル N453b墓	第11王朝	樽形・管状ビーズ首飾り 2(樽:bl-gr.fa 35個、管:brownsh bla.fa 3個) (樽:ca 32個、管:ca 1個)、樽形ビーズ首飾り 1(am)、円盤形ペンダント 1(si)、ウラエウス(コブラ)形ペンダント 1(si)、球形ビーズ腕輪 1(bl.fa)、小・球形ビーズ腕輪 2(am, ca, gr.sto) (am, ca, ga)、小・球形・腕形ビーズ腕輪 1(am, ca, gr.sto, si)、小・樽形ビーズ腕輪 1(am, ca)、小・管状・ウジャットの眼形ビーズ腕輪 1(ca, bl or gr.fa)、スカラベ 1(ca)、スカラベ付きおそろく指輪 1(am, linen)、円盤形・球形・管状ビーズ腰飾り 1(sh 約 585個、ca 29個、gr.fa 5個)、かぎ爪形ペンダント付き足輪 2(am, bo, ca, si)	Eaton 1941
アビュドスラメセス2世神殿の北 1008墓	中王国前半?	トルク 1(si)	Frankfort 1930
アビュドス(El-Arabah) E30墓、古王国時代のマスタバ墓に隣接	中王国(第12王朝~第13王朝)	大ききの異なる球形ビーズ首飾り 1(am)、二重冠付きハヤブサ形ペンダント 2(go) (si)、魚形ペンダント 2(go)、向かい合った2羽の鳥形ペンダント 2(go) (si)、ハヤブサ形ペンダント 2(go)、スカラベ・ペンダント・球形ビーズ腕輪 1(ga, gl)、球形ビーズ腕輪 2(ca) (ga)	Garstang 1902
アビュドス(El-Arabah) E45墓(2)	中王国後半(第12王朝末)	球形ビーズ首飾り 1(gr.gl)	Garstang 1902
アビュドス(El-Arabah) E45墓(3)	中王国後半(第12王朝末)	ビーズとペンダント首飾り 1(ca)、ビーズ腕輪 1(ga)	Garstang 1902
アビュドス(El-Arabah) E45墓(4)	中王国後半(第12王朝末)	ビーズ首飾り 1(am, ca, ga, gr.gl)	Garstang 1902
アビュドス(El-Arabah) E45墓	中王国後半(第12王朝末)	足輪に付くかぎ爪形ペンダント 2(el)	Garstang 1902
アビュドス(El-Arabah) E108墓・Hor(?)	中王国後半(第12王朝~第13王朝)	貝形ペンダント 1(el)、球形ビーズおそろく首飾り 2(bl.gl) (am)、小ビーズおそろく首飾り 1(ga)、金属製腕輪 2(go)、スカラベ付き指輪 1(スカラベ: la、リング: go)、子安貝形ビーズ腰飾り(el)	Garstang 1902
アビュドス D104墓	中王国後半?	円盤形・異なるサイズの球形ビーズ首飾り 1(円盤形: si 1個、球形: ca 72個)	Peet and Loat 1914
アビュドス D105墓	中王国後半?	貝・円盤形・その他ビーズ首飾り 1(貝: sh 5個、円盤形: wh)	Peet and Loat 1914
アビュドス D152墓、lower S.ch.	中王国後半?	大球形・小球形・管状ビーズ首飾り 1(bl.gl)	Peet and Loat 1914
アビュドス D161墓、lower S.ch.	中王国後半?	円盤形・球形ビーズ首飾り(円盤: si 1個、球形: ca, he 多数)	Peet and Loat 1914
アビュドス D162墓、N.ch.	中王国後半?	首飾りを構成する球形ビーズ(bl.gl)、首飾りを構成する管状ビーズ(bl.gl)、首飾りを構成する円盤形ビーズ(bl.gl)	Peet and Loat 1914
アビュドス D166墓、shaft	中王国後半?	球形・樽形ビーズ首飾り 1(am)、首飾りを構成するビーズ(ca) (gl.sto)、首飾りの中心に位置するペンダント(go)	Peet and Loat 1914
アビュドス D166墓、N.ch.	中王国後半?	貝形ペンダント 1(go)、スカラベ付き指輪 1(スカラベ: bl.gl、リング: si)	Peet and Loat 1914
アビュドス D167墓、lower S.ch.	中王国後半?	おそろくトルク(si)、球形・円盤形ビーズ首飾り(球形: am, bl.gl、円盤形: bl.gl)	Peet and Loat 1914
アビュドス D176墓	中王国後半?	球形・管状ビーズ首飾り 1(球形: am, ca, ga 多数、管状: bl.gl 1個)、首飾りを構成する小樽形ビーズ 多数(bl.gl)	Peet and Loat 1914
アビュドス D203墓	中王国後半?	管状・円盤形ビーズ首飾り(管状: 1個、円盤形: dark bl.gl)	Peet and Loat 1914
アビュドス D234墓、lower in shaft	中王国後半?	首飾りを構成するビーズ大量(am) (bl.gl) (ca) (ga)、貝形ペンダント 1(go)	Peet and Loat 1914
アビュドス D234墓、N.ch	中王国後半?	首飾りを構成する球形ビーズ(bl.gl)、首飾りを構成する管状ビーズ(bl.gl)	Peet and Loat 1914
アビュドス D241墓	中王国後半?	貝形ペンダント(go)	Peet and Loat 1914

出土地・被葬者	時代	出土した装身具	参考文献
アビュドス D243墓	中王国後半?	ビーズ首飾り 1(ca, gl, go, fe)	Peet and Loat 1914
アビュドス D303墓、S.chs.	中王国後半?	首飾りを構成する球形ビーズ大量(am) (ca) (gr)、貝形ペンダント 2?(go or si)、スカラベ付き指輪 1(スカラベ: bl.gl、リング: si)	Peet and Loat 1914
アビュドス(El-Arabah) E105墓・Nekht	中王国	球形ビーズ首飾り(gr.gl, go)、8形ペンダント 1(ca, go)	Garstang 1902
アビュドス 1607墓	中王国	球形・樽形ビーズ首飾り 1(am)、ハヤブサ形ビーズ首飾り 1(gl)、二重冠付きハヤブサ形ペンダント 1(si)	Frankfort 1930
アビュドス S25墓、upper N.ch.	中王国(第12王朝)	小円盤形ビーズ首飾り(bl.gl)	Peet 1914
アビュドス S25墓、upper S.ch.	中王国(第12王朝)	カハ頭形ペンダント(ca)	Peet 1914
アビュドス S25墓、lower S.ch.	中王国(第12王朝)	小ビーズ首飾り(bl.gl)	Peet 1914
アビュドス S27墓	中王国(第12王朝)	小円盤形ビーズ首飾り 2(bl.gl)、小ビーズ腕輪 3(bl.gl) (ca)	Peet 1914
アビュドス S39墓、lower S.ch.	中王国(第12王朝)	首飾りを構成する管状ビーズ(gl.st)、首飾りを構成する小ビーズ(go)、首飾りを構成する樽形ビーズ 2(ca)、スカラベ 1(ca)	Peet 1914
アビュドス S173b墓	中王国(第12王朝)	小円盤形ビーズ首飾り(bl.gl)	Peet 1914
アビュドス S175墓、N.ch.	中王国(第12王朝)	円盤形ビーズ首飾り	Peet 1914
アビュドス S194墓	中王国(第12王朝)	小ビーズ足輪 3(bl.gl)、足輪に付く足形ビーズ(ペンダント?) 1(ca)	Peet 1914
アビュドス S260墓	中王国(第12王朝)	円盤形ビーズ首飾り(bl.gl)	Peet 1914
アビュドス S340墓、lower S.	中王国(第12王朝)	首飾り 1(ca)、球形・円盤形・管状ビーズ首飾り 1(bl.gl)	Peet 1914
アビュドス S500墓	中王国(第12王朝)	小ビーズの足輪(gl)	Peet 1914
アビュドス S627墓、S.ch.	中王国(第12王朝)	金属製腕輪 2(si)	Peet 1914
アビュドス S12墓	中王国(第12王朝)	円盤形・球形ビーズ首飾り(円盤: si 1個、球形: bl.gl 約94個)、首飾りを構成する管状ビーズ 4(ca 2個)(gl.st 2個)、小ビーズ腕輪 2(ca, bl.gl)	Peet 1914
アビュドス S20墓	中王国(第12王朝)	円盤形ビーズ首飾り 2(bl.gl)	Peet 1914
アビュドス S44墓	中王国(第12王朝)	傘形ビーズ首飾り 1(bl.gl)、首飾りを構成する渦巻き模様のある傘形ビーズ 1(bl.gl, bla)、首飾りを構成するひし形ビーズ 1(ca)、球形ビーズ腕輪 1(he)、ビーズ腕輪 1、スカラベ 3(am) (bl.gl) (bla.sto)	Peet 1914
アビュドス S51墓	中王国(第12王朝)	小円盤形・管状・砕けた巻貝ビーズ首飾り 1(小円盤: dark bl.gl 多数、管状: gl.st 2個、巻貝: sh 数個)	Peet 1914
アビュドス D9墓、the lowest ch.	中王国	球形ビーズ首飾り 1(ca)	Peet 1914
アビュドス D75墓	中王国	腕輪を構成する球形ビーズ(bl.gl)、腕輪を構成する管状ビーズ(light and dark bl.gl)、腕輪を構成する小円盤形ビーズ(bl.gl, ca)	Peet 1914
アビュドス G6墓	中王国	ビーズ首飾り 1(ca)、nb形の上に下エジプトの王冠が表現されたペンダント 1(go)、円盤形ビーズ首飾り 2(bl.gl) (sh)	Peet 1914
フツ W 32墓	中王国おそらく後半(第12王朝)	ハヤブサ形ビーズ首飾り(am, ca, si)	Petrie 1901
フツ W 72墓	中王国後半?(第12王朝)	ビーズ首飾り(he)	Petrie 1901
フツ Y 15墓、東の部屋・Abnu	中王国後半?(第12王朝)	球形・管状ビーズ首飾り(gl)、小球形ビーズ首飾り(gl)	Petrie 1901
フツ G 6墓	中王国後半?(第12王朝)	ビーズ腕輪 4(gr.gl) (ca, he, wh.fe) (am, ca, he) (ca, he, wh.fe)	Petrie 1901
デーベ・メンチュヘテプ2世葬祭殿ピット 18、MMA 1921・Myt(王女カ)	第11王朝(メンチュヘテプ2世治世初期)	球形ビーズ首飾り 2(ca) (go)、小・樽形・ウジャットの眼形・スカラベ形ビーズ 4連首飾り 1(ca, cr, si, gla, fe, am, ja)、小・樽形・ウジャットの眼形 2連首飾り 1(ca, gla, si, cr)、トルク 1(go)	Hayes 1953
デーベウアの墓(MMA 1102)・wh	中王国前半(第12王朝初め)	樽形 1(bl.fa)、球形ビーズ首飾り 2(bl.fa)、球形・小管状ビーズ首飾り 2(go) (si)、管状・樽形ビーズ首飾り 1(管状: ca 5個、por 2個、bl 3個、qu 3個、樽: ca 9個、qu 4個、ag 2個)、幅狭腕輪 4(bl.fa)、スカラベ・樽形・管状ビーズ腕輪 3(スカラベ: go, si 1個、樽: wh.gl, bl.gl 1個、管状: bl.gl 1個)(スカラベ: la 1個、樽: ca 1個、管状: ca 1個)、スカラベ付き指輪 1(スカラベ: bl.gl、リング: linen)、セウレットビーズ 1(ca, linen)、幅狭足輪 4(bl.fa)	Roehrig 2003
デーベ MMA Cemetery 800, Tomb MMA 840, MMA 1912-1913	中王国時代後半(第12王朝~第2中間期)	大ききの異なる球形ビーズ首飾り 1(am)、貝形ペンダント 1(si)、二重冠付きハヤブサ形ペンダント 1(el)、金属製腕輪 複数(si)、幅広腕輪 複数(ca, la, tu, si)、子安貝・アカシアの種形ビーズ腰飾り 1(si, am, ca)	Hayes 1953

エジプト学研究 第21号

2015年3月31日発行

発行所 / 早稲田大学エジプト学会

〒169-8050 東京都新宿区戸塚町1-104

早稲田大学エジプト学研究所内

発行人 / 吉村作治

The Journal of Egyptian Studies No.21

Published date: 31 March 2015

Published by The Egyptological Society, Waseda University

1-104, Totsuka-chyo, Shinjyuku-ku, Tokyo, 169-8050, Japan

© The Institute of Egyptology, Waseda University